

早いもので、今年も残り 1 か月となりました。大人は何かと慌 ただしい毎日ですが、子どもたちはクリスマスにお正月とお楽しみ がいっぱいの季節です。同時に様々な感染症が流行る時期でもあり ます。生活リズムの崩れが体調不良につながることも。体調管理に 注意し、元気に過ごしましょう。



2024.12.2

情見保育園



-00-

予 予防策は事前に検討 帰省中の子どもの事故 ◎◎

年末年始はお子さんを連れて帰省するというご家庭も多いと思います。 子どもたちは好奇心旺盛。いつもと違う環境で思わぬ事故が起こることも。

★電車の中で ドアの戸袋に 腕を巻き込まれた ☀ストーブの上に 手をついて

やけどした

00

★親戚の吸っていた タバコの吸い殻を 誤飲した

-00---00-

食品を食べて

周りの大人が目を離さないことはもちろん、事前に帰省先の方々と相談し て、子どもの手の届く範囲に危険なものは置かないなどの予防策をとるのも 大切です。楽しい時間が過ごせるよう、環境を整えてあげてください。



0

0

0

0

0

0

0

0 1

0

0

0

0

冬に気をつけたい 子どもり感染症

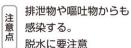
00

ロタウイルス感染症

白っぽい



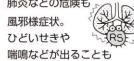




RSウイルス感染症

-00





基礎疾患を持つお子さんは 重症化しやすいので要注意

インフルエンザ

A型、B型などウイルスの 種類で症状が異なる

突然の高熱、悪寒や倦怠 感などの全身症状、気道 症状など

感染力が高い。 稀にインフルエンザ脳症 を起こすことも

秋冬のスキンケア 3分

秋冬の乾燥した空気は、デリケートな子どもの肌 には大敵。放っておくと、かゆかゆ、かさかさに なってしまいます。「こまめに、丁寧に」日常的な ケアをしてあげてください。

● たっぷり保湿 保湿剤は、おふろ上がりに は必ず塗りましょう。肌に 湿り気があるうちに使うと、 角質層に水分を閉じ込めら れるので効果的。

砂 刺激を少なくする 直接肌にふれる衣類は綿素 材がお勧め。ポリエステル などの合成繊維は静電気を 起こしやすいため、皮膚を 刺激してかゆみのもとに。



② 清潔を保つ 顔に汚れなどが付いて いたらきれいにふいて。 おふろではごしごしこす らず、せっけんを泡立て て優しく洗います。



子どもがロナいたら・・・・・

ここを存在記し

- □おなかを痛がったり、下痢をしていないか?
- □食べすぎや飲みすぎはなかったか?
- □吐く前に食べたものは何だったか?
- □吐く前に頭やおなかを打っていないか?
- 無はないか?

吐いた後ぐったりしている、機嫌が悪いなど、 様子によっては急いで受診しま

何度も吐き続けるときは……

- 食べ物や飲み物を与えず、安静にする
- 吐いたものが気管に入らないように、上体を起こす か、顔を横に向けて寝かせる



吐き気が治まったら……

さゆや麦茶、野菜スープなどを、ひと口ず つゆっくり飲ませる

(II) 0 0 0 (II) 0 0 0 (III) 0 0 0 (IIII) 0 0 0 (III) 0 0 (IIII) 0 0 (III) 0 (III) 0 0 (III) 0 0 (IIII) 0 0 (III) 0 0 (III) 0 0 (III) 0 0 (0

解熱剤、正しく使って

風邪で高い熱が出ると心配になるものですが、発熱は体が 病原体と戦うための生理的反応。熱を下げることで治りが

早くなるわけではありません。

どんなときに使う?

熱で寝つけない、 飲んだり食べたりできないときに 飲ませましょう。

ただ単に熱があるか らと飲ませるのではな く、「睡眠をとって体力 を回復させるため」「水 分をとって脱水を防ぐ ため」など、必要なと きに使いましょう。



熱が下がれば大丈夫?

効果が切れたらまた熱が上がります。 解熱の判断は24時間以上 熱が出ないときです。

解熱剤の効果で熱が下がるのは 5~6時間ほどで、効果が切れた らまた熱が上がることがほとんど です。引き続き様子を見て、静か に過ごさせましょう。解熱剤で熱 を下げて無理をさせると、かえっ て病気が長引くおそれがあります。



0

O

0

0

0

0

1

■ 0 0 0 ⊕ 0 0 0 ■ 0 0 0 ⊕ 0 0 0 ■ 0 0 0 ⊕ 0 0 0 ■ 0 0 0 ⊕ 0 0 0 ■ 0 0 0 0 ■ 0 0 0 0 ■ 0 0 0 ■ 0 0 0 ■ 0 0 0 ■ 0 0 0 ■ 0 0 0 ■ 0 0 0 ■ 0 0 0 ■ 0 0 0 ■ 0 0 0 ■ 0 0